2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	地域福祉と包括的支援体制	担当教員 （実務経験）	村山 文彦 有 ☑ 無 ☐ 社会福祉士として高齢者施設に勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	地域共生社会は地域包括ケアシステムを中核として地域ごとに構築することをめざしている。その中心的役割としてソーシャルワーカーには大きな期待が寄せられている。本講義では、地域共生社会構築を担うソーシャルワーカーに必要な知識やスキルを実践事例とともに学ぶ。				
到達目標	地域共生社会や地域包括ケアシステムに関する考え方を理解し、地域課題を解決するために必要な社会資源や意見を述べることができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新　社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座6　地域福祉と包括的支援体制』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集　中央法規出版 『社会福祉小六法2023」 ミネルヴァ書房編集部　ミネルヴァ書房				

評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	定期試験の結果を基本とし、、受講態度も加味し総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	20%	

履修上の 留意事項	教科書の流れに沿って授業を行うが、必要に応じて資料の配布を行う。なお、学習課題や理解の進捗状況により予定が前後する場合がある。テキストで基礎知識を学び、厚生労働省のホームページ等も確認して近年の政策動向を押さえておくこと。

履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題(村山）	オリエンテーション 地域社会の概念と理論
	2		地域社会の変化・多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ
	3		地域福祉と社会的孤立
	4	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制（村山）	地域包括ケアシステム
	5		生活困窮者自立支援の考え方
	6		包括的支援体制とは
	7		地域共生社会の構築とは・地域共生社会の実現に向けた各種施策
	8	地域福祉ガバナンスと多機関協働（村山）	地域福祉ガバナンス
	9		多機関協働を促進する仕組み
	10		多職種連携・福祉以外の分野との機関協働の実際
	11	地域福祉の基本的考え方（鈴木）	地域福祉の概念と理論
	12		地域福祉の歴史・地域福祉の動向
	13		地域福祉の推進主体
	14		地域福祉の主体と福祉教育
	15	前期のまとめ（鈴木）	前期授業の要点整理と理解状況の確認

	16	地域を基盤としたソーシャルワークの展開（鈴木）	地域を基盤としたソーシャルワークの方法
	17		住民の主体形成に向けたアプローチ
	18		具体的な展開
	19	災害時における総合的かつ包括的な支援体制（鈴木）	非常時や災害時における法制度
	20		非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援
	21	福祉計画の意義と種類　策定と運用（佐藤）	福祉計画の意義と種類、策定と運用
	22		福祉計画の定義、目的、機能と歴史的展開
	23		市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容
	24		福祉計画の策定過程と方法
	25		福祉計画におけるニーズ把握の方法・技術
	26		福祉計画における評価
	27	福祉行財政システム（佐藤）	国・都道府県・市町村の役割
	28		国と地方の関係・福祉における財源
	29		福祉行政の組織及び専門職の役割
	30	後期のまとめ（佐藤）	1年間の学習のまとめと振り返り

授業科目 （科目ID）	地域福祉と包括的支援体制	担当教員 （実務経験）	鈴木 琴美 有 ☑ 無 ☐ 社会福祉士として高齢者施設に勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員 （実務経験）	佐藤 衛 有 ☑ 無 ☐ 社会福祉士として障がい者施設に勤務
授業形態	講義		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	社会保障	担当教員 （実務経験）	中村　さやか 有 ☐　無 ☑		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	社会保障とは、社会生活及び経済的活動において、安心を確保するための社会的制度、仕組み、システムの総体であるといえる。具体的には、医療・福祉・労働等の分野における各種の制度運営が中心となる。本講義では、年金保険、医療保険、介護保険等の分野において、その運営システムの内容、課題等を概観し、より望ましい社会保障システムのあり方について紹介することを目的とする。				
到達目標	社会保障全体の構造、特に各社会保険制度の仕組みと課題を説明することができる				
テキスト・ 参考図書等	『最新　社会福祉士・精神保健福祉士養成講座7　社会保障』 一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	定期試験結果と提出物にて成績を評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	20%	
	その他	%	

履修上の 留意事項	指定した教科書を使用して主に板書の形式をとる。必要に応じて資料の配布を行なう。講義では、社会保障の基礎を理解することに重点を置きますが、国家試験に向けての応用力をつけるためにもテレビや新聞等で社会保障関係のニュースなどをチェックしておくと良いと思います。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	導入／現代社会と社会保障	ライフサイクルからみた社会保障制度
	2	社会保障の理念と機能	社会保障の定義・目的・機能
	3	社会保障の歴史Ⅰ	海外社会保障史
	4	社会保障の歴史Ⅱ	国内社会保障史
	5	社会保障制度の体系	制度の役割や機能
	6	社会保険の構造	5つの社会保険制度の基本構造
	7	社会扶助の構造	公的扶助・社会手当・社会福祉
	8	社会保障の財源と費用	社会保障給付費と財源
	9	社会保障の財源と費用	社会保障と経済
	10	年金保険制度の沿革と体系Ⅰ	公的年金制度の沿革
	11	年金保険制度の沿革と体系Ⅱ	近年の制度改正
	12	年金保険制度の概要Ⅰ	国民年金
	13	年金保険制度の概要Ⅱ	厚生・共済年金保険
	14	年金保険制度の概要Ⅲ	近年の動向
	15	医療保険制度の沿革と体系	医療保険制度の沿革と概要

	16	医療保険制度の概要Ⅰ	健康保険・共済制度
	17	医療保険制度の概要Ⅱ	国民健康保険
	18	医療保険制度の概要Ⅲ	後期高齢者医療制度と医療をめぐる最近の動向
	19	介護保険制度創設の経緯	制度のねらい・制度改正
	20	介護保険制度の概要Ⅰ	制度の枠組み
	21	介護保険制度の概要Ⅱ	保険給付の仕組みと最近の動向
	22	労働保険制度－労災保険Ⅰ－	沿革と概要
	23	労働保険制度－労災保険Ⅱ－	仕組み
	24	労働保険制度－雇用保険Ⅰ－	沿革と概要
	25	労働保険制度－雇用保険Ⅱ－	仕組み
	26	社会保障と民間保険	社会保険と民間保険
	27	社会保障と民間保険	民間保険の概要
	28	社会保障と民間保険	企業年金等
	29	諸外国における社会保障制度	欧州の社会保障制度
	30	諸外国における社会保障制度	アメリカ、アジアの社会保障制度

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目（科目ID）	権利擁護を支える法制度	担当教員（実務経験）	鈴木　道代 有 ☐　無 ☑		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	権利擁護に関連する幅広い法的知識を身につけることを目的とする。				
到達目標	①ソーシャルワーク実践における権利擁護の意義を理解し、説明できる。 ②法に関連する概念を理解し、説明できる。 ③ソーシャルワーク実践にかかわる法として憲法、民法、行政法を理解し、説明できる。④成年後見制度の概要を理解し、説明できる。⑤日常生活自立支援事業の概要を理解し、説明できる。⑥苦情解決の仕組みを理解し、説明できる。⑦インフォームド・コンセントと個人情報保護の概要を理解し、説明できる。⑧意思決定支援の概要を理解し、説明できる。				
テキスト・参考図書等	『最新　社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座9　権利擁護を支える法制度』 日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版 参考図書：『社会福祉小六法2023』 ミネルヴァ書房				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	90%	定期試験、授業内での課題への取組状況・授業への参加状況等で評価します。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	10%	

履修上の留意事項	・教科書、プリント、参考資料を使用します。・毎回プリントを配布します。ノート代わりのプリントは各自で整理しファイルしてください。・各テーマ終了時に、確認問題を実施します。学生の理解度の確認、復習に役立ててください。・日常生活で見聞する権利擁護の活動、権利侵害に関する情報に関心を向けてください。・講義内で取り扱いのできなかったテーマについては、各自教科書を読み学習してください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション、権利擁護の意義	・シラバスから授業計画、評価方法の確認 ・権利擁護とソーシャルワーク
	2	法の基礎	・法に関連する概念
	3	憲法①	・憲法の概要
	4	憲法②	・基本的人権
	5	行政法	・行政法の概要、行政不服申立制度、行政事件訴訟制度
	6	民法①	・民法の概要、契約の仕組み、不法行為
	7	民法②	・親族法（夫婦・親子）
	8	民法③	・相続法（遺言・相続）
	9	成年後見制度①	・法定後見制度の概要と三類型（後見・保佐・補助）の概要
	10	成年後見制度②	・最近の動向と課題、成年後見制度利用支援事業の概要、成年後見制度利用促進法
	11	成年後見制度③	・任意後見制度の概要
	12	日常生活自立支援事業	・日常生活自立支援事業の概要
	13	苦情解決制度の仕組み	・苦情解決の仕組みの概要
	14	意思決定支援	・意思決定支援の概要
	15	インフォームド・コンセントと個人情報保護	・インフォームド・コンセントの概要 ・守秘義務と個人情報保護

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	社会福祉の原理と政策	担当教員 （実務経験）	吉田　竜平 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として障がい者支援施設に勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	本科目は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の指定科目であることを踏まえ、次の7点を目標とする。①社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。②社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。③社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。④福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。⑤福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。⑥福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。⑦福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。				
到達目標	・社会福祉の歴史、思想・哲学、理論の基本的な内容について説明できる。 ・福祉政策の展開過程、構成要素、必要と資源の概念、関連する具体的な施策について説明できる。 ・福祉サービスの供給と利用過程、諸外国の福祉政策の基本的な事柄を説明できる。 ・ソーシャルワーカーが、社会福祉の理論、歴史、政策を学ぶ意義について説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『社会福祉の原理と政策』中央法規. をテキストとして指定する。 ・授業毎にテキストの要点を記載したレジュメを配布する。 ・必要に応じて補助資料や、視覚教材を使用することがある。				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70%	中間テストと期末試験の結果、提出物や授業参加姿勢を総合して評価する。
	レポート	%	
	小テスト	20%	
	提出物	10%	
	その他	%	

履修上の 留意事項	①授業は原則、講義形式で実施する。②本科目は、国家試験でも点数が取りにくい科目であるが、苦手意識をもたずに意欲的に授業に参加することを期待する。③授業においての不明点や疑問点に関しては、授業終了後等に質問をし、解消することを心がけること。④私語などの他学生への迷惑となる行為は厳禁とする。⑤社会情勢や社会福祉、社会保障に関する各種報道に関心を持つことを期待する。⑥専門用語が頻出する科目であるが、可能な限り平易な表現で説明することを心がける。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション、社会福祉の原理	授業の目的と到達目標、年間授業予定の確認、社会福祉の原理の意味と展開
	2	社会福祉の歴史①	社会福祉の歴史を学ぶ視点
	3	社会福祉の歴史②	欧米の社会福祉の歴史的展開
	4	社会福祉の歴史③	日本の社会福祉の歴史的展開
	5	社会福祉の思想・哲学、理論①	社会福祉の思想・哲学
	6	社会福祉の思想・哲学、理論②	社会福祉の理論
	7	社会福祉の思想・哲学、理論③	社会福祉の論点
	8	社会福祉の思想・哲学、理論④	社会福祉の対象とニーズ
	9	社会問題と社会構造①	現代における社会問題
	10	社会問題と社会構造②	社会問題の構造的背景
	11	福祉政策の基本的な視点①	福祉政策とは何か
	12	福祉政策の基本的な視点②	福祉政策の理念、概念
	13	福祉政策におけるニーズと資源①	ニーズ（必要）について
	14	福祉政策におけるニーズと資源②	リソース（資源）について
	15	中間まとめ	前半の授業内容について小テストの実施

	16	福祉政策の構成要素と過程①	福祉政策の構成要素
	17	福祉政策の構成要素と過程②	福祉政策の過程と評価
	18	福祉政策の動向と課題①	福祉政策と包括的支援の現状
	19	福祉政策の動向と課題②	福祉政策と包括的支援の課題
	20	福祉政策と関連施策①	保健医療施策、教育施策等
	21	福祉政策と関連施策②	労働施策、住宅施策等
	22	福祉サービスの供給と利用過程①	福祉供給部門
	23	福祉サービスの供給と利用過程②	福祉供給過程
	24	福祉サービスの供給と利用過程③	福祉利用過程
	25	福祉政策の国際比較①	国際比較の視点と方法
	26	福祉政策の国際比較②	欧米の福祉政策の動向
	27	福祉政策の国際比較③	東アジアの福祉政策の動向、福祉政策の新しい潮流と国際比較の新しい課題
	28	これからの社会福祉①	社会福祉の出発点と到達点
	29	これからの社会福祉②	社会福祉の展望、ソーシャルワーカーにとっての社会福祉の理論・歴史・政策
	30	年間のまとめ	後半の内容および年間を通しての振り返りを行う

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	介護の基本Ⅲ	担当教員 （実務経験）	髙橋　銀司 有 ☑　無 ☐　介護福祉士として訪問介護事業所に勤務		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	より質の高い介護福祉士となるために、介護現場における連携の在り方を基礎から応用まで学習する。				
到達目標	あらゆる事態を想定し、利用者の最善の利益を考えることの出来る視野を「多職種連携・協働」から学び、持続可能な介護福祉士としての素養を身につける。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	定期試験、提出物、その他（平常点）など総合的に評価します。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	30%	
	その他	10%	

履修上の 留意事項	テキストを基本とし、板書・プリント・視聴覚機器による学習を行います。当該科目は、これまで学んできたことの応用や実践知識の展開がなされてます。多角度から物事を捉えられるように、柔軟な発想が出来るよう心がけましょう。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	介護実践における連携について
	2	第4章　協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の必要性	多職種連携・協働とは 多職種・連携を要請する社会の動き
	3	第4章　協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の必要性	なぜ、多職種連携・協働が必要なのか 多職種連携・協働が阻むもの
	4	第4章　協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の必要性	多職種連携・協働の効果 （演習）多職種連携・協働と社会の動きについて
	5	第4章　協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働に求められる基本的な能力	介護現場での多職種連携が必要とされる意味 多職種連携・協働のためのチームづくり
	6	第4章　協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働に求められる基本的な能力	多様な視点と受容が必要とする協働 課題解決に対する多職種のかかわり
	7	第4章　協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働に求められる基本的な能力	多職種協働を成功させるための介護技術と知識 多職種とホスピタリティ的視点
	8	第4章　協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働に求められる基本的な能力	多職種連携に求められるコミュニケーション能力 （演習）チームに携わっているべき要素について
	9	第4章　協働する多職種の機能と役割 保健・医療・福祉職の役割と機能	社会福祉士、介護支援専門員、医師、歯科医師、看護師、保健師
	10	第4章　協働する多職種の機能と役割 保健・医療・福祉職の役割と機能	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士・栄養士、歯科衛生士
	11	第4章　協働する多職種の機能と役割 保健・医療・福祉職の役割と機能	公認心理士、薬剤師、サービス提供責任者、その他
	12	第4章　協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の実際	専門職連携実践とは何か 多職種における地域での連携・協働
	13	第4章　協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の実際	特別養護老人ホームの連携の実態調査から自立支援介護における多職種連携の実際
	14	第4章　協働する多職種の機能と役割 保健・医療・福祉職の役割と機能および多職種連携・協働の実際	保健・医療・福祉職の役割と機能および多職種連携・協働の実際に関する総合的な演習
	15	総合まとめ	協働する多職種の機能と役割のおさらい

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	介護の基本Ⅳ	担当教員 （実務経験）	阿部　幸恵 有 ☑　無 ☐　看護師として病院に勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	①介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を学ぶ。 ②介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について学ぶ。				
到達目標	①介護における事故防止の基本的知識を理解し、危険予知と危険回避が考えられ述べることができる。 ②労働環境の管理について理解ができ、自己の健康管理ができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	・左記レポートは授業内で課題を提示します。その際の提出用紙、内容、提出期限に該当します。 ・左記「その他」については、グループディスカッション時の参加態度、姿勢、発言、記録、質疑応答、自らメモを取り考える、などの主体的な取り組み姿勢を求めます。
	レポート	20%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	20%	

履修上の 留意事項	テキストを基本とし、板書・プリント・グループデイスカッションによる学習を行います。当該科目は、これまで学んできたことの応用や実践知識の展開がなされてます。多角度から物事を捉えられるように、柔軟な発想が出来るよう心がけましょう。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	第3章　介護における安全の確保とリスクマネジメント 第1節～2節　安全の確保　リスクマネジメントとは	介護における安全の確保の重要性　介護事故と介護過誤　事例検討
	2	第2節　リスクマネジメントとは何か	苦情解決制度と事例検討　身体拘束
	3	第2節　リスクマネジメントとは何か	組織体制の理解、ハインリッヒの法則、グループワーク
	4	第2節　リスクマネジメントとは何か	生活の中のリスクと対策、医療行為の確認
	5	第2節　リスクマネジメントとは何か	AKTシートを通し学びを深める　グループワーク
	6	第2節　リスクマネジメントとは何か	非常災害を考える　安全を確保するには
	7	第3章　介護における安全の確保とリスクマネジメント 第3節　感染症対策	高齢者の特徴、感染症の基礎知識
	8	第3節　感染症対策	生活の場での感染症対策　感染症発生時の対応
	9	第3節　感染症対策	主な感染経路　個別の感染症対策　グループでまとめ作問する
	10	第3節　感染症対策	薬剤耐性菌の理解　感染に関するまとめ　グループで作問する
	11	第5章　介護従事者の安全 第1節　健康管理の意義と目的	労働基準法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法などの法制度
	12	第2節　心の健康管理	ストレスとは何か、その対処法と介護従事者がかかりやすい病気
	13	第3節　身体の健康管理	介護従事者の健康障害　腰痛予防対策の考え方と取り組み・グループワーク
	14	第3節　身体の健康管理	腰痛対策・予防について各グループより発表
	15	全体のまとめ	今までの振り返り・定期試験対策

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	コミュニケーション技術	担当教員 （実務経験）	山根　英香 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として社会福祉事務所に勤務		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	①社会福祉士としての専門的対人援助スキルを理解し演習する　②現場でのチーム力を高めるためのアプローチについて理解し演習する				
到達目標	社会福祉士の視点で、対人援助場面において適切なコミュニケーションをとることができる				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座5　コミュニケーション技術　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	小テスト、レポート、講義への出席、演習への参加態度を総合的に評価します
	レポート	25%	
	小テスト	50%	
	提出物	%	
	その他	25%	

履修上の 留意事項	演習は学生の皆さんの参加で成立します。積極的に受講されることを期待します。配布したプリントやノートは小テストの際にみることできます。講義ごとに整理しておくことをお勧めします。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション・利用者、家族との信頼関係をつくるコミュニケーション①	講義の進行の説明、受容と共感
	2	利用者、家族との信頼関係をつくるコミュニケーション②	非言語的コミュニケーション
	3	利用者、家族との信頼関係をつくるコミュニケーション③	面接の演習
	4	他職種との信頼関係をつくるコミュニケーション	自己開示
	5	利用者のニーズを引き出すコミュニケーション①	沈黙時のコミュニケーション
	6	利用者のニーズを引き出すコミュニケーション②	ソリューションフォーカスドアプローチ
	7	わかりやすい説明と同意の引き出し①	プレゼンテーション
	8	わかりやすい説明と同意の引き出し②	苦情・クレーム時のコミュニケーション
	9	主体者を支援するコミュニケーション①	コーチング
	10	主体者を支援するコミュニケーション②	ストレングス・エンパワメントアプローチ
	11	情報を共有する上でのコミュニケーション	会議やミーティングでのコミュニケーション
	12	コミュニケーション力を高めよう①	アサーション
	13	コミュニケーション力を高めよう②	ディベート王選手権
	14	コミュニケーション力を高めよう③	事例検討の方法
	15	総括	全講義内容の振り返りと演習

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	生活支援技術Ⅴ	担当教員 （実務経験）	山谷　博美 有 ☑　無 ☐　介護福祉士として介護老人保健施設に勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	障害があっても自立を目指し、個別性を尊重した介護の展開ができるための知識と技能を習得することを目的とする。また、これまでに学んだ生活支援技術の知識や技術を基礎として、多様化する社会や日々進化する生活支援に対応するための技術を学ぶ機会とする。				
到達目標	各領域の障害について理解し、生活全体に着目した汎用性の高い生活支援技術の知識と技法を身につける。また福祉用具、介護ロボットや地域支援における介護福祉士に必要な知識を身につけ、対象者の能力に応じた福祉用具等の選択や活用ができる能力を習得する。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『最新・介護福祉士養成講座7　生活支援技術Ⅱ 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『最新・介護福祉士養成講座8　生活支援技術Ⅲ 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『福祉用具専門相談員研修テキスト』 シルバーサービス振興会　日本医療企画				

評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	その他については、実技達成状況の評価とする。
	レポート	0%	
	小テスト	10%	
	提出物	20%	
	その他	10%	

履修上の 留意事項	1～3コマを実施後に介護実技試験を行います。自信をもって実習に臨めるよう繰り返しの練習をしましょう。 26～28コマは、普通救命講習Ⅱの修了を目的に実施します。実施日に遅刻・欠席の場合、補講は行いません。

履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	介護技術の総まとめ（山谷）	移動《実技》
	2	介護技術の総まとめ（山谷）	着脱《実技》
	3	介護技術の総まとめ（山谷）	排泄《実技》
	4	視覚障害に応じた介護①（山谷）	視覚障害者の生活理解と観察視点
	5	視覚障害に応じた介護②（山谷）	ガイドヘルプ《実技》
	6	福祉用具①（山谷）	福祉用具の意義と活用①
	7	福祉用具②（山谷）	福祉用具の活用①（施設見学）
	8	福祉用具③（山谷）	福祉用具の活用②（施設見学）
	9	介護ロボット①（山谷）	介護ロボットの現状と展望
	10	介護ロボット②（山谷）	介護ロボットの活用①（施設見学）
	11	介護ロボット③（山谷）	介護ロボットの活用②（施設見学）
	12	福祉用具作成①（山谷）	事例検討①
	13	福祉用具作成②（山谷）	事例検討②
	14	福祉用具作成③（山谷）	事例検討③
	15	福祉用具作成④（山谷）	事例報告会

	16	肢体不自由に応じた介護（泉）	肢体不自由の理解　観察の視点　支援の展開
	17	感覚器障害に応じた介護（泉）	感覚器障害の理解　重複障害〈盲ろう〉の理解　観察の視点　支援の展開
	18	心臓・呼吸機能障害に応じた介護（泉）	【内部障害】心臓機能障害の理解　呼吸機能障害の理解　観察の視点　支援の展開
	19	腎臓機能障害・肝臓機能障害に応じた介護（泉）	【内部障害】腎機能障害の理解　肝機能障害の理解　観察の視点　支援の展開
	20	排泄機能障害・HIVによる免疫機能障害に応じた介護（泉）	【内部障害】膀胱・直腸機能障害の理解　小腸機能障害の理解　HIVによる免疫機能障害の理解　観察の視点　支援の展開
	21	重症心身障害、知的・精神障害に応じた介護（泉）	重症心身障害の理解　知的障害の理解　精神障害（統合失調症　気分障害）の理解　観察の視点　支援の展開
	22	高次脳機能障害・発達障害に応じた介護（泉）	高次脳機能障害の理解　発達障害（自閉症スペクトラム障害　注意欠陥多動性障害）の理解　観察の視点　支援の展開
	23	筋萎縮性側索硬化症（ALS）・パーキンソン病に応じた介護 悪性関節リウマチ・筋ジストロフィーに応じた介護（泉）	【難病】筋萎縮性側索硬化症（ALS）とは　パーキンソン病とは　悪性関節リウマチとは　筋ジストロフィーとは　観察の視点　支援の展開
	24	部位別の障害に応じた介護（障害別介護のまとめ）（泉）	上部・下部機能の障害別の介護
	25	応急手当の知識と技術　災害時における生活支援（泉）	応急手当とその実際　被災地で活動する際の心構え　災害時における生活支援
	26	緊急時の対応　救命講習（泉）	普通救命講習Ⅱ［講義］
	27	緊急時の対応　救命講習（泉）	普通救命講習Ⅱ［実技］
	28	緊急時の対応　救命講習（泉）	普通救命講習Ⅱ［実技］
	29	人生の最終段階における介護（泉）	人生の最終段階の意義と介護の役割
	30	人生の最終段階における介護　まとめ（泉）	人生の最終段階における介護　授業の振り返り

授業科目 （科目ID）	生活支援技術Ⅴ	担当教員 （実務経験）	泉　共基 有 ☑ 無 ☐ 看護師として病院に勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
授業形態	演習		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	介護過程の実践Ⅱ	担当教員 （実務経験）	髙橋　綾 有 ☑　無 ☐　介護福祉士としてケアハウスに勤務		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	介護福祉士として専門的な見地から介護を提供できるように、対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開をできる能力を養う。				
到達目標	本人の望む生活の実現にむけて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程、チームとしての介護過程展開能力を習得する。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座9 介護過程　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	その他は、提出課題の内容や提出期限、授業への取り組み姿勢、発表への積極的姿勢など総合的に評価します。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	10%	
	その他	30%	

履修上の 留意事項	講義や演習では学生参加型授業が主となります。理解できない場合は質問するなど、積極的な参加を求めます。介護サービス提供に向けて大切な授業です。授業中に課した課題を次回の授業教材として使用する場合があるので、課題の提出期限は必ず守ってください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	介護過程実践Ⅰの振り返り	介護過程実践Ⅰの振り返り
	2	事例検討	事例検討Ⅰ①
	3	事例検討	事例検討Ⅰ②
	4	事例検討	事例検討Ⅰ③
	5	事例検討	事例検討Ⅰ④
	6	介護の実施①	介護の実施　実施の記録①
	7	介護の実施②	介護の実施　実施の記録②
	8	介護の実施③	情報の共有と個人情報の保護　ケーススタディの記入方法（実施状況）
	9	評価	評価の意義と目的　評価の内容と方法、ケーススタディの記入方法（評価）
	10	事例検討	事例検討Ⅱ①
	11	事例検討	事例検討Ⅱ②
	12	事例検討	事例検討Ⅱ③
	13	事例検討	事例検討Ⅱ④
	14	定期試験対策①	定期試験対策①
	15	国家試験対策①	国家試験対策①

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	介護研究	担当教員 （実務経験）	髙橋　綾 有 ☑　無 ☐　介護福祉士としてケアハウスに勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	3単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	23回	時間数	45時間
授業目的	介護福祉士として専門的な見地から介護を提供できるように、各領域で学んだ知識と技術を統合し、調べ学習をするなかで表現方法、分析力及び思考能力を身につけることを目的とする。				
到達目標	・調べ学習を通し、自分の興味のあることに対しての情報収集力を習得する。 ・他者にわかりやすく伝える力（書く・話す）を習得する。 ・文献や報告書などを読み、自分の考えまとめる力を習得する。				
テキスト・ 参考図書等	指定教材はないが、各自のテーマに沿った教材を用意する。				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	課題の内容、提出状況、主体的な取り組み、自身のテーマに関する（発表内容・わかりやすいパワーポイント・質疑応答など）により総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	60%	
	その他	40%	

履修上の 留意事項	福祉に対する理解、どのような援助者になりたいか、自身のテーマと考えを深めるために、文献検索や収集においても主体的に行ってください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	介護研究Ⅰ（発表資料の作成①）（髙橋・泉・山谷）	研究に発表にむけての原稿作成①
	2	介護研究Ⅰ（発表資料の作成②）（髙橋・泉・山谷）	研究に発表にむけての原稿作成②
	3	介護研究Ⅰ（発表資料の作成③）（髙橋・泉・山谷）	研究に発表にむけての原稿作成③
	4	介護研究Ⅰ（発表資料の作成④）（髙橋・泉・山谷）	研究に発表にむけての原稿作成④
	5	介護研究Ⅰ（発表資料の作成⑤）（髙橋・泉・山谷）	研究に発表にむけての原稿作成⑤
	6	介護研究Ⅰ（発表資料の作成⑥）（髙橋・泉・山谷）	研究に発表にむけての原稿作成⑥
	7	介護研究Ⅰ（発表資料の作成⑦）（髙橋・泉・山谷）	研究に発表にむけての原稿作成⑦
	8	介護研究Ⅰ（発表資料の作成⑧）（髙橋・泉・山谷）	研究に発表にむけての原稿作成⑧
	9	介護研究Ⅱ（抄録の作成①）（髙橋・泉・山谷）	研究に発表にむけての抄録作成①
	10	介護研究Ⅱ（抄録の作成②）（髙橋・泉・山谷）	研究に発表にむけての抄録作成②
	11	介護研究Ⅱ（抄録の作成③）（髙橋・泉・山谷）	研究に発表にむけての抄録作成③
	12	介護研究Ⅱ（抄録の作成④）（髙橋・泉・山谷）	研究に発表にむけての抄録作成④
	13	介護研究Ⅱ（抄録の作成⑤）（髙橋・泉・山谷）	研究に発表にむけての抄録作成⑤
	14	介護研究Ⅱ（抄録の作成⑥）（髙橋・泉・山谷）	研究に発表にむけての抄録作成⑥
	15	介護研究Ⅲ（発表資料の作成①）（髙橋・泉・山谷）	研究発表に向けてのパワーポイント作成①

	16	介護研究Ⅲ（発表資料の作成②）（高橋・泉・山谷）	研究発表に向けてのパワーポイント作成②
	17	介護研究Ⅲ（発表資料の作成③）（高橋・泉・山谷）	研究発表に向けてのパワーポイント作成③
	18	介護研究Ⅲ（発表資料の作成④）（高橋・泉・山谷）	研究発表に向けてのパワーポイント作成④
	19	介護研究Ⅲ（発表資料の作成⑤）（高橋・泉・山谷）	研究発表に向けてのパワーポイント作成⑤
	20	介護研究Ⅲ（発表資料の作成⑥）（高橋・泉・山谷）	研究発表に向けてのパワーポイント作成⑥
	21	介護研究発表準備①　（高橋・泉・山谷）	研究発表に向けての確認①
	22	介護研究発表準備②　（高橋・泉・山谷）	研究発表に向けての確認②
	23	介護研究発表準備③　（高橋・泉・山谷）	研究発表に向けての確認③
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		

2023年度　専門学校北海道福祉・保育大学校　介護福祉学科　別紙1

授業科目 （科目ID）	介護研究	担当教員	泉　共基
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 看護師として病院に勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員	山谷　博美
授業形態	講義	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 介護福祉士として介護老人保健施設に勤務
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	介護総合演習Ⅱ	担当教員 （実務経験）	髙橋　綾 有 ☑　無 ☐　介護福祉士としてケア	
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15回	時間数
授業目的	介護福祉実習Ⅰの振り返り、他者とのデイスカッションを通して自己を客観的に振り返り介護福祉実習Ⅱに向けた課題を明確化 施設理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識・技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。			
到達目標	自己の課題が明確化され、介護福祉実習Ⅱにおける課題克服にむけての取り組みが具体的に述べることができる。 施設理解が深まり、実習生に求められる姿勢、視点、記録の意味を理解し、実習に向けた心の準備が整う。			
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『令和4年度介護実習要項』 学校法人吉田学園専門学校北海道福祉・保育大学校			

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	課題の内容、提出状況、実習の進め方や記録方法の理解度にて総合的に評価
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	30%	
	その他	70%	

履修上の 留意事項	提出物は施設に提出するものもあり、期限厳守でお願いします。理解できないままにしておくと介護福祉実習に影響します。不安 取り組んでください。原則欠席をしないことですが、欠席した場合は翌登校時に必ず教員のところへ確認に来るようにしてください

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション（山谷）	介護福祉実習Ⅱの目的・実習内容
	2	介護福祉実習Ⅰの振り返り（山谷・泉・髙橋）	一年次実習の振り返りを通して、自己課題を明確
	3	実習生の役割（泉）	取り組み姿勢・心得を再確認し、するべき準備を明
	4	記録物について①（泉）	個人票を作成する
	5	記録物について②（山谷）	自己の実習計画をイメージし、週別目標を作成す
	6	記録物について③（山谷）	自己の実習計画をイメージし、週別目標を作成す
	7	記録物について④（山谷）	実習日誌を記入する意義・目的、ケーススタディの
	8	記録物について⑤（髙橋）	誓約書・同意書の作成、お礼状の書き方、記録物
	9	実習に向けての事前準備①（髙橋）	コミュニケーションの基礎的知識・技術の習得
	10	実習に向けての事前準備②（髙橋）	介護実践に必要な知識・技術の習得
	11	実習に向けての事前準備③（髙橋）	カンファレンスの意義・目的・技術の習得
	12	実習施設の理解①（髙橋・泉）	実習施設とその地域の理解、社会資源との関わり
	13	実習施設の理解②（髙橋・泉）	実習施設とその地域の理解、社会資源との関わり
	14	介護福祉実習Ⅱオリエンテーション	実習の目的・意義・心構え・提出期限の再確認
	15	〃	施設別面談

ハウスに勤務

1単位

30時間

する。介護福祉実習Ⅱに向けた

|します。

なく実習に向かえるよう積極的に
。

化する

確化する

る

る

記入方法の確認

の提出期限、留意点の再確認

を理解する①

を理解する②

授業科目 （科目ID）	介護総合演習Ⅱ	担当教員	泉　共基
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 看護師として病院に勤務
対象年次・学期	2年・前期	担当教員	山谷　博美
授業形態	演習	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 介護福祉士として介護老人保健施設に勤務
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	介護総合演習Ⅲ	担当教員 （実務経験）	髙橋　綾 有 ☑　無 ☐　介護福祉士としてケアハウスに勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	①介護福祉実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う。 ②質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる介護研究の意義とその方法について理解する。				
到達目標	①実習のまとめ、報告会などを通じ学びを共有・深化させ自己の課題と展望を考えることができる。 ②介護研究の意義・目的を理解する。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『令和4年度介護実習要項』 学校法人吉田学園専門学校北海道福祉・保育大学校				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	課題の内容、提出状況、実習の進め方や記録方法の理解度にて総合的に評価します。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	30%	
	その他	70%	

履修上の 留意事項	今までの実習の総括となります。提出物は施設に提出するものもあり、期限厳守でお願いします。原則欠席をしないことですが、欠席した場合は翌登校時に必ず教員のところへ確認に来るようにしてください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	介護福祉実習Ⅱのまとめ①（泉・髙橋・山谷）	介護福祉実習Ⅱの振り返り・ケースのまとめ①
	2	介護福祉実習Ⅱのまとめ②（泉・髙橋・山谷）	介護福祉実習Ⅱの振り返り・ケースのまとめ②
	3	介護福祉実習Ⅱのまとめ③（泉・髙橋・山谷）	介護福祉実習Ⅱの振り返り・ケースのまとめ③
	4	介護福祉実習報告会①（泉・髙橋・山谷）	介護福祉実習Ⅱ報告会①
	5	介護福祉実習報告会②（泉・髙橋・山谷）	介護福祉実習Ⅱ報告会②
	6	介護研究オリエンテーション①（髙橋）	介護研究の意義と目的
	7	介護研究オリエンテーション②（髙橋）	研究の基礎、方法等
	8	介護研究のテーマの作成①（髙橋）	自分が研究したいと考えているテーマ、その理由について①
	9	介護研究のテーマの作成②（髙橋）	自分が研究したいと考えているテーマ、その理由について②
	10	介護研究計画書作成①（髙橋）	介護研究計画書作成①
	11	介護研究計画書作成②（髙橋）	介護研究計画書作成②
	12	介護研究Ⅰ（文献収集・文献読込②）（髙橋）	研究テーマに合わせて文献の検索・収集する、文献読込①
	13	介護研究Ⅰ（文献収集・文献読込③）（髙橋）	研究テーマに合わせて文献の検索・収集する、文献読込②
	14	介護研究Ⅰ（文献収集・文献読込④）（髙橋）	研究テーマに合わせて文献の検索・収集する、文献読込③
	15	介護研究中間まとめ（泉・髙橋・山谷）	介護研究発表に向けた今後の確認

授業科目 （科目ID）	介護総合演習Ⅲ	担当教員	泉　共基
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 看護師として病院に勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員	山谷　博美
授業形態	演習	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 介護福祉士として介護老人保健施設に勤務
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	介護福祉実習Ⅱ	担当教員 （実務経験）	髙橋　綾 有 ☑ 無 ☐ 介護福祉士としてケアハウスに勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）		時間数	200時間
授業目的	1. 本人の望む生活の実現に向けて多職種との協働の中で、介護福祉専門職としての理解と介護過程を実践する能力を養う。 2. 多様な介護現場における介護福祉専門職としての倫理観や連携、個別ケアの能力を養う。				
到達目標	令和4年度介護福祉実習要項参照				
テキスト・ 参考図書等	『令和4年度介護福祉実習要項』 学校法人吉田学園　専門学校北海道福祉・保育大学校				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	実習先評価及び学校評価を総合的に判断する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	100%	

履修上の 留意事項	介護実習を実践するためには、とりわけ介護総合演習Ⅱにおける事前学習での学びが重要となります。またその他の科目における学びを十分に理解して、実習の場において対象者に対応するための基礎的知識を身に付けておくこと。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
		多職種協働における介護の実践 （髙橋・阿部・山谷・泉）	対象者に応じた日常生活の援助を理解する
		多職種協働における介護の実践 （髙橋・阿部・山谷・泉）	多職種協働の中で、介護福祉士としての役割を理解する
		多職種協働における介護の実践 （髙橋・阿部・山谷・泉）	多職種協働の中で、介護福祉士としての連携について体験的に学ぶ
		多職種協働における介護過程の実践 （髙橋・阿部・山谷・泉）	個別ケアの重要性と対象者のニーズについて学ぶ
		多職種協働における介護過程の実践 （髙橋・阿部・山谷・泉）	自立支援に向けたサービスの提供方法を学ぶ
		その他詳細は介護福祉実習要項を参照とする	

授業科目 （科目ID）	介護福祉実習Ⅱ	担当教員	阿部　幸恵
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 看護師として病院に勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員	山谷　博美
授業形態	実習	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 介護福祉士として介護老人保健施設に勤務
		担当教員	泉　共基
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 看護師として病院に勤務
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	心理学理論と心理的支援	担当教員 （実務経験）	和田　晃尚 有 ☑　無 ☐　臨床心理士として児童養護施設に勤務		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	ソーシャルワーク実践において求められる心理学の基本的知識と心理的支援の方法を学ぶ。				
到達目標	学んだ心理学の知識や支援方法を実践の中でどのように活用できるのか説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座2　心理学と心理的支援』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	レポートの内容・期末試験の成績から総合的に判断
	レポート	20%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の 留意事項	心理学はソーシャルワークの実践で必要とされる重要な学問の1つです。対人援助の場面で、心理学の知識がどのように活用できるのかについて着目しながら理解を深めてください。授業開講までにテキストを一読しておくことをお勧めします。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	心理学の視点	心理学の歴史と対象、心を探求する方法の発展（教科書P2～17）
	2	心の生物学的基盤	神経系、脳の構造、遺伝と環境について（教科書P20～28）
	3	感情・動機づけ・欲求	感情の仕組みと機能、動機づけ理論（教科書P29～44）
	4	学習・行動①	古典的条件づけとオペラント条件づけ（教科書P54～63）
	5	学習・行動②	学習理論と心理的支援
	6	感覚・知覚、認知、知能	知覚の情報処理過程（教科書P45～52）、注意・記憶、思考・認知バイアス（教科書P64～74）、知能（教科書P75～78）
	7	パーソナリティと社会の中での心理	パーソナリティ理論（教科書P79～95）
	8	人の心の発達過程①	ライフステージと発達課題（教科書P98～106）
	9	人の心の発達過程②	認知と言語の発達、アタッチメント理論（教科書P107～122）
	10	日常生活と心の健康	心の不適応、健康生成論（教科書P124～149）
	11	心理学の理論を基礎とした支援方法①	心理アセスメント、心理的支援の基本的技法（教科書P152～172）
	12	心理学の理論を基礎とした支援方法②	各種心理療法、心理の専門職（教科書P173～194）
	13	ソーシャルワークと心理学①	子ども・家庭福祉領域、高齢者福祉領域の心理的支援の実際（教科書P198～207）を基にした事例検討
	14	ソーシャルワークと心理学②	障がい児・者福祉領域、精神保健福祉領域の心理的支援の実際（教科書P208～218）を基にした事例検討
	15	ソーシャルワークの心理学③	支援者支援、制度利用と心理的ケア（教科書P219～229）

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	認知症の理解Ⅱ	担当教員 （実務経験）	髙橋　綾 有 ☑　無 ☐　介護福祉士としてケアハウスに勤務		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	認知症の人が「その人らしく暮らす」ために、関わる際の留意点と地域で支える具体的な視点について学習します。				
到達目標	認知症の理解と、認知症の人の理解ができ、その人らしさを大切にした関わりが出来る。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座13　認知症の理解　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	定期テスト、小テスト、提出物、グループワークや発表への積極的姿勢などを総合的に評価します。
	レポート	%	
	小テスト	10%	
	提出物	10%	
	その他	20%	

履修上の 留意事項	当該科目では、認知症に関する基礎的知識を活かして、関わりや地域で支える視点および実践的な内容の授業を展開します。各授業において小テストを実施し基礎的知識の確認をします。2・3・4の授業は、現場の介護福祉士の講義となります。認知症の人の理解を深め、関わることができるように学ぶ意欲をもって授業に臨んでください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション、1年の振り返り（髙橋）	本授業の進め方、1年次の振り返りテスト、パーソン・センタード・ケアについて
	2	認知症ケアの実際①（越後）	現場で行われているケアの実際（音楽療法）
	3	認知症ケアの実際②（越後）	現場で行われているケアの実際（音楽療法）
	4	地域におけるサポート体制（木元）	地域のサポート体制について
	5	認知症の人の理解（髙橋）	VR体験①
	6	認知症の人の理解（髙橋）	VR体験②
	7	認知症の人のアセスメント（髙橋）	センター方式・ひもときシートの理解
	8	認知症ケアの実際①（髙橋）	認知症の人へのケア（コミュニケーション・食事・排泄）
	9	認知症ケアの実際②（髙橋）	認知症の人へのケア（入浴・睡眠・BPSDへの対応）
	10	認知症の人へのさまざまなアプローチ①（髙橋）	ユマニチュード・バリデーション・回想法等
	11	認知症の人へのさまざまなアプローチ②（髙橋）	タクティールケア・学習療法等
	12	認知症の人へのさまざまなアプローチ③（髙橋）	コグニサイズ、ふまねっと、シナプソロジー等
	13	介護者支援（髙橋）	家族への支援、介護福祉職への支援
	14	認知症の人の地域生活支援（髙橋）	地域包括ケアシステムにおける認知症ケア・地域生活支援
	15	まとめ（髙橋）	認知症の理解のまとめ、定期試験対策

授業科目 （科目ID）	認知症の理解Ⅱ	担当教員	越後　若葉
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 介護福祉士として介護老人保健施設に勤務
対象年次・学期	2年・前期	担当教員	木元　国友
授業形態	講義	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 介護福祉士として地域共生施設に勤務
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	医療的ケアⅠ	担当教員 （実務経験）	嶌田　美穂子 有 ☑　無 ☐　看護師として病院に勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	34回	時間数	68時間
授業目的	医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるように必要な知識・技術を習得する。				
到達目標	医療的ケアを安全・適切に実施するための必要な知識が述べられ、必要な物品を準備し手順が説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座15医療的ケア　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70%	この科目は、34コマすべての授業を受講しなければ評価を受けられません。 受講後試験を実施します。 試験、小テスト、各実施手順の参加態度など総合的に勘案し評価します。
	レポート	%	
	小テスト	10%	
	提出物	%	
	その他	20%	

履修上の留意事項	講義を中心に板書、DVD等の視覚教材、演習を行います。・人工呼吸器、喀痰吸引、経管栄養等はシュミレーターを使用し学びます。・単元ごとの確認テストを実施し、復習に役立てます。※この授業は34コマ必ず出席しなければ単位修得はできません。また、授業終了後に実施する試験に合格しなければ、医療的ケアⅡへは進めませんので、毎回の授業の中で知識を習得するように努力してください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	第1章第1節　医療的ケアとは	オリエンテーション　医療的ケアとは、医療的ケア実施の基礎
	2	第1節　医行為について	医行為とは、医療的ケアにおける個人の尊厳・医療の倫理
	3	第1節　喀痰吸引等制度（社会福祉士及び介護福祉士法の改正）	医療制度とその変遷、社会福祉士及び介護福祉士法の改正、 改正法による喀痰吸引等制度の概要
	4	第2節　安全な療養生活	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 【リスクマネジメント、ヒヤリハット・アクシデント】
	5	第2節　安全な療養生活	救急蘇生　救急蘇生法の実際（DVD鑑賞後実施）
	6	第3節　清潔保持と感染予防	感染予防、介護福祉職の感染予防、療養環境の清潔、消毒法、消毒と滅菌
	7	第4節　健康状態の把握	身体・精神の健康　健康状態を知る項目（バイタルサインなど）
	8	第4節　健康状態の把握	急変状態について　《確認テスト》
	9	第2章　第1節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	呼吸のしくみとはたらき　いつもと違う呼吸状態、呼吸の音を聞いてみよう！
	10	第1節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	喀痰吸引とは
	11	第1節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	人工呼吸器と吸引1
	12	第1節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	人工呼吸器と吸引2
	13	第1節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	子どもの吸引について 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意
	14	第1節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	喀痰吸引に関連した感染・危険性・安全確認
	15	第1節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	急変・事故発生時の対応と事前対策　《確認テスト》

履修主題・履修内容	16	第2節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引で用いる器具・器材のしくみ、清潔保持、吸引の技術と留意点
	17	第2節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引にともなうケア、報告および記録
	18	第2節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引（口腔内・鼻腔内）実施手順1
	19	第2節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引（口腔内・鼻腔内）実施手順2
	20	第2節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引（気管カニューレ内）実施手順3
	21	第2節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内）手順確認1
	22	第2節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内）手順確認2
	23	第2節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引まとめ　《確認テスト》
	24	第3章　第1節　高齢者および障害児・者の経管栄養概論	消化器系のしくみとはたらき
	25	第1節　高齢者および障害児・者の経管栄養概論	消化・吸収とよくある消化器の症状、経管栄養とは
	26	第1節　高齢者および障害児・者の経管栄養概論	注入する栄養剤に関する知識、経管栄養実施上の留意点
	27	第1節　高齢者および障害児・者の経管栄養概論	子どもの経管栄養、経管栄養に関係する感染と予防、 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意
	28	第1節　高齢者および障害児・者の経管栄養概論	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認、 急変・事故発生時の対応と事前対策　《確認テスト》
	29	第2節　高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持
	30	第2節　高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養の技術と留意点、経管栄養に必要なケア、報告および記録
	31	第2節　高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養（経鼻経管）実施手順1
	32	第2節　高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養（経鼻経管・胃ろう）実施手順2
	33	第2節　高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養（胃ろう・半固形化栄養剤）実施手順3
	34	第2節　高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養まとめ、今までの振り返り　《確認テスト》

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	児童・家庭福祉	担当教員 （実務経験）	田村　志帆 有 ☑　無 ☐ 社会福祉士・精神保健福祉士として若者支援機関・児童精神科に勤務		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	子ども家庭福祉領域のソーシャルワーカーとなるために必要な基礎的知識を習得する。そして、子ども家庭福祉領域のソーシャルワーカーとしての価値を醸成する。				
到達目標	①権利保障の歴史や子ども観の変遷の概要を説明できる。②児童福祉法や児童虐待防止法など関係する各法制度内容に関して説明ができる。③子ども家庭福祉領域に携わる関係機関と専門職に関して説明できる。④子ども家庭福祉領域における課題と支援について述べることができる。⑤子ども家庭福祉領域の理念・価値や社会福祉士の役割について述べることができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新　社会福祉士養成講座3　児童・家庭福祉』 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	・定期試験、小テスト、提出物、授業の参加態度（質問や発言、話を聞く態度など）を総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	10%	
	提出物	10%	
	その他	20%	

履修上の 留意事項	主体的な参加姿勢で受講することを期待する。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	子ども家庭福祉の理念及び概念	・子ども家庭福祉とは何か
	2	子どもの権利保障の歴史	・子ども家庭福祉の歴史
	3	子ども家庭を取り巻く現代社会	・子ども家庭を取り巻く社会環境 ・現代社会における課題と子育ち・子育てへの影響
	4	子ども家庭福祉の支援の基盤	・子ども家庭福祉の法体系、実施体制、関係機関など
	5	子ども家庭福祉におけるソーシャルワーク	・こども家庭福祉におけるソーシャルワークの意味 ・アセスメント、支援の展開と連携　など
	6	子どもの福祉課題と支援①	・子ども・子育て支援 ・母子保健
	7	子どもの福祉課題と支援②	・保育 ・要保護児童等と在宅支援
	8	子どもの福祉課題と支援③	・児童虐待にかかわる支援
	9	子どもの福祉課題と支援④	・社会的養護
	10	子どもの福祉課題と支援⑤	・ひとり親家庭への支援 ・ドメスティック・バイオレンスと女性支援
	11	子どもの福祉課題と支援⑥	・スクールソーシャルワーク ・少年非行
	12	子どもの福祉課題と支援⑦	・若者支援
	13	子どもの福祉課題と支援⑧	・障害のある子どもへの支援
	14	子どもの福祉課題と支援⑨	・ソーシャルアクション ・当事者参画とアドボカシーにかかわる実践・小テスト
	15	まとめ	小テスト解説　など

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	貧困に対する支援	担当教員 （実務経験）	安田　昌彰 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として社会福祉士事務所を運営		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	市民生活を守る社会保障・社会福祉制度の最後のセーフティネットとして位置付けられている公的扶助、その概念と範囲、意義と役割について学び、「貧困」や「低所得」と呼ばれている問題についての理解を図ります。さらに貧困・低所得者対策としての生活保護制度をはじめ他の低所得者対策の制度的仕組み、福祉事務所を中心とした生活保護の運営実施体制や、貧困・低所得者に対して行われる相談援助活動の実際などについて学びます。				
到達目標	多様な貧困の様相から現代社会の問題点を述べ、生活保護制度や低所得者に対する法制度を説明することができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新　社会福祉士養成講座　4　貧困に対する支援』　一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	定期試験、授業中の発言内容や質疑など総合的に判断して評価します。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	20%	

履修上の 留意事項	今日の社会経済状況等を背景に、生活保護の必要性が高まっています。また、生活保護制度をめぐっては様々な議論がなされ改革が行われており、テレビや新聞等でその動向をチェックしておきましょう。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	公的扶助の概念	公的扶助の概念と範囲
	2	公的扶助の概念　・貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境	公的扶助の意義と役割・貧困の概念・貧困状態にある人の生活実態・貧困状態にある人を取り巻く社会環境
	3	貧困の歴史	貧困状態にある人に対する福祉の理念・貧困観の変遷
	4	貧困の歴史	貧困に対する制度の発展過程
	5	生活保護制度	生活保護法の構成・生活保護法の目的と原理、原則
	6	生活保護制度	保護の種類と内容および方法
	7	生活保護制度	保護施設・被保護者の権利および義務・不正、不適正受給対策
	8	生活保護制度	不服申し立て訴訟・保護の財源、予算
	9	生活保護制度	最低生活保障水準と生活保護基準・保護の動向
	10	低所得者に対する法制度	生活困窮者自立支援制度・生活福祉資金貸付制度
	11	低所得者に対する法制度	低所得者対策・ホームレス対策
	12	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割	貧困に対する支援における公私の役割関係・国、都道府県、市町村の役割・福祉事務所の役割
	13	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割	自立相談支援機関の役割・その他の貧困に対する支援における関係機関の役割・関連する専門職等の役割
	14	貧困に対する支援の実際	貧困に対する支援における社会福祉士の役割・支援に必要とされる視点と基本姿勢・貧困に対する支援の実際
	15	まとめと振り返り	まとめと振り返り

2021年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）		担当教員 （実務経験）	有 □　無 □		
対象年次・学期		必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数（1回90分）		時間数	
授業目的					
到達目標					
テキスト・ 参考図書等					

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の 留意事項	

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目（科目ID）	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	担当教員 （実務経験）	小林　智子 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として成年後見に従事		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	本科目では、①人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロにおけるソーシャルワークについて理解する。②ソーシャルワークの様々な実践アプローチについて理解する。③ソーシャルワークの過程とそれに係る知識・技術について理解する。④コミュニティワークの概念とその展開について理解する。⑤ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。以上、5つのポイントを目的とする。				
到達目標	ソーシャルワークおよびコミュニティワーク実践を展開する上で必要となる基礎知識・技術とその基盤となる理論、ならびにスーパービジョンについて説明することができる。				
テキスト・参考図書等	『最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座12　ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』 日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70%	定期試験結果、提出物（課題等）、授業での積極的な発言や発言内容を総合的に判断して最終評価を行います。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	20%	
	その他	10%	

履修上の留意事項	本科目では、ソーシャルワーカーとして実践をしていくための基礎知識を身につけます。難しい専門用語が頻出しますが専門職として実践していくための基盤となりますので、積極的に、そして関心を持って受講して下さい。分からないことはそのままにせず、質問して下さい。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	第1章　人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク①	ソーシャルワーカーが学ぶ理論　システム理論
	2	第1章　人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク②	生態学理論　ライフモデル　バイオ・サイコ・ソーシャルモデル
	3	第2章　ソーシャルワークの過程	ケースの発見　エンゲージメント（インテーク）
	4	第3章　ソーシャルワークの過程	アセスメントの意義と目的　方法　留意点
	5	第4章　ソーシャルワークの過程	プランニングの意義と目的　プロセスと方法　留意点
	6	第5章　ソーシャルワークの過程	支援の実施　モニタリング　効果測定
	7	第6章　ソーシャルワークの過程	支援の終結　支援の結果評価　アフターケア
	8	第7章　ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ①	治療モデル　ストレングスモデル　生活モデル（ライフモデル）
	9	第7章　ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ②	心理社会的アプローチ　機能的アプローチ
	10	第7章　ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③	問題解決アプローチ　課題中心アプローチ
	11	第7章　ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ④	行動変容アプローチ　認知アプローチ
	12	第7章　ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ⑤	危機介入アプローチ　エンパワメントアプローチ
	13	第7章　ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ⑥	ナラティヴアプローチ　解決志向アプローチ
	14	第7章　ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ⑦	さまざまなアプローチ
	15	第8章　ソーシャルワークの面接①	面接の意義と目的　面接の方法と実際　留意点

	16	第8章　ソーシャルワークの面接②	面接の構造と場面　面接の技法
	17	第9章　ソーシャルワークの面接③	言語的面接技法　マイクロカウンセリング
	18	第9章　ソーシャルワークの記録①	記録の意義と目的　記録の内容
	19	第9章　ソーシャルワークの記録②	記録のフォーマット　SOAPノート
	20	第10章　ケアマネジメント（ケースマネジメント）①	ケアマネジメント（ケースマネジメント）の原則
	21	第10章　ケアマネジメント（ケースマネジメント）②	ケアマネジメント（ケースマネジメント）の意義と方法
	22	第11章　グループを活用した支援	グループワークの意義と目的　展開過程　セルフヘルプグループ
	23	第12章　コミュニティワーク①	コミュニティワークの意義と目的　コミュニティワークの展開
	24	第12章　コミュニティワーク②	コミュニティワークの理論的系譜とモデル
	25	第13章　ソーシャルアドミニストレーション①	ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義
	26	第13章　ソーシャルアドミニストレーション②	組織介入・組織改善の実践モデル　組織運営における財源の確保
	27	第14章　ソーシャルアクション①	ソーシャルアクションの概念とその意義
	28	第14章　ソーシャルアクション②	コミュニティ・オーガナイジング
	29	第15章　スーパービジョンとコンサルテーション①	スーパービジョンの意義、目的、方法
	30	第15章　スーパービジョンとコンサルテーション②	コンサルテーションの意義、目的、方法

授業科目 （科目ID）		担当教員 （実務経験）	有 ☑ 無 ☐
対象年次・学期		担当教員 （実務経験）	有 ☑ 無 ☐
授業形態			
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	担当教員 （実務経験）	小林　智子 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として成年後見活動に従事		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	①総合的かつ包括的な支援の実際について理解する。②援助関係の形成に関する知識と技術について理解する。③ネットワークの形成や社会資源の活用・調整・開発について理解する。④カンファレンスの意義や留意点、事例分析の方法について理解する。⑤関連技法について理解する。				
到達目標	①援助関係の形成、ネットワーキングおよび社会資源の活用や関連技法について理解している。②カンファレンスや事例分析の方法について理解している。③総合的かつ包括的、実際的な支援について説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・社会福祉士養成講座6ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70%	・定期試験結果、提出物（課題等）、授業での積極的な発言や発言内容を総合的に判断して最終評価を行います。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	20%	
	その他	10%	

履修上の 留意事項	本科目は、ソーシャルワークの基盤となる知識を身につける科目です。自分の中に落とし込んで理解するように努めてください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	本科目の目的と進め方（シラバスの確認）、ソーシャルワーク理論の振り返り
	2	第1章　総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際①	総合的かつ包括的支援の考え方
	3	第1章　総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際②	家族支援の実際①
	4	第1章　総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際③	家族支援の実際②
	5	第1章　総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際④	家族支援の実際③
	6	第1章　総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際⑤	地域支援の実際①
	7	第1章　総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際⑥	地域支援の実際②
	8	第1章　総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際⑦	非常時や災害時支援の実際①
	9	第1章　総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際⑧	非常時や災害時支援の実際②
	10	第1章　総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際⑨	非常時や災害時支援の実際③
	11	第2章　ソーシャルワークにおける援助関係の形成①	援助関係形成の意義と概念
	12	第2章　ソーシャルワークにおける援助関係の形成②	援助関係の形成方法と留意点
	13	第3章　ネットワークの形成①	ネットワーキング
	14	第3章　ネットワークの形成②	コーディネーション
	15	第4章　ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発①	社会資源とは何か①

	16	第4章　ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発②	社会資源とは何か②
	17	第4章　ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発③	ソーシャルワーク実践と社会資源
	18	第4章　ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発④	社会資源開発のさまざまな方法
	19	第5章　カンファレンス①	会議の種類と方法
	20	第5章　カンファレンス②	ミクロ・メゾ・マクロの会議①
	21	第5章　カンファレンス③	ミクロ・メゾ・マクロの会議②
	22	第6章　事例分析、事例検討、事例研究①	事例分析
	23	第6章　事例分析、事例検討、事例研究②	事例検討
	24	第6章　事例分析、事例検討、事例研究③	事例研究①
	25	第6章　事例分析、事例検討、事例研究④	事例研究②
	26	第7章　ソーシャルワークに関連する技法①	ネゴシエーション
	27	第7章　ソーシャルワークに関連する技法②	コンフリクト・レゾリューション
	28	第7章　ソーシャルワークに関連する技法③	ファシリテーション
	29	第7章　ソーシャルワークに関連する技法④	プレゼンテーション
	30	第7章　ソーシャルワークに関連する技法⑤	ソーシャル・マーケティング

2021年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）		担当教員 （実務経験）	有 □　無 □		
対象年次・学期		必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数（1回90分）		時間数	
授業目的					
到達目標					
テキスト・ 参考図書等					

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の 留意事項	

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	ソーシャルワーク演習Ⅱ	担当教員 （実務経験）	小林　智子 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として成年後見に従事		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	①ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値判断を理解し、倫理的な判断能力を養う。③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。④ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てて行くことができる能力を習得する。				
到達目標	ソーシャルワークの価値を基盤として知識・技術を活用し、支援を必要とする人々とさまざまな課題状況への支援展開とその支援内容を検討・記録することができる。				
テキスト・ 参考図書等					

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	提出物の提出状況や内容、グループワークでの検討内容や積極的な参加姿勢、ロールプレイ等を総合的に評価します。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	60%	
	その他	40%	

履修上の 留意事項	ソーシャルワーク実践事例の分析・検討を通して、様々なクライエントの課題状況や支援のあり方について理解を深めます。その際に、ロールプレイ、グループディスカッション、記録等を行いますので、積極的に参加して下さい。クライエントの立場に立ち、どのような支援が適切かを皆さんで考えていきましょう。配布されたレジメや参考資料は各自で必ずファイリングして下さい。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	実践事例の検討①	虐待に対する支援事例の検討と実践の理解①
	2	実践事例の検討②	虐待に対する支援事例の検討と実践の理解②
	3	実践事例の検討③	虐待に対する支援事例の検討と実践の理解③
	4	実践事例の検討④	虐待に対する支援事例の検討と実践の理解④
	5	実践事例の検討⑤	貧困家庭に対する支援事例の検討と実践の理解①
	6	実践事例の検討⑥	貧困家庭に対する支援事例の検討と実践の理解②
	7	実践事例の検討⑦	貧困家庭に対する支援事例の検討と実践の理解③
	8	実践事例の検討⑧	貧困家庭に対する支援事例の検討と実践の理解④
	9	実践事例の検討⑨	独居高齢者に対する支援事例の検討と実践の理解①
	10	実践事例の検討⑩	独居高齢者に対する支援事例の検討と実践の理解②
	11	実践事例の検討⑪	独居高齢者に対する支援事例の検討と実践の理解③
	12	実践事例の検討⑫	独居高齢者に対する支援事例の検討と実践の理解④
	13	実践事例の検討⑬	障害者に対する支援事例の検討と実践の理解①
	14	実践事例の検討⑭	障害者に対する支援事例の検討と実践の理解②
	15	実践事例の検討⑮	障害者に対する支援事例の検討と実践の理解③

	16	実践事例の検討⑯	障害者に対する支援事例の検討と実践の理解④
	17	ソーシャルワーク実践の展開①	高齢者虐待への支援（ケース発見～インテーク）とアウトリーチ、チームアプローチの理解と実践①
	18	ソーシャルワーク実践の展開②	高齢者虐待への支援（ケース発見～インテーク）とアウトリーチ、チームアプローチの理解と実践②
	19	ソーシャルワーク実践の展開③	高齢者虐待への支援（アセスメント面接①）
	20	ソーシャルワーク実践の展開④	高齢者虐待への支援（アセスメント面接②）
	21	ソーシャルワーク実践の展開⑤	高齢者虐待への支援（プランニング～支援の実施）とネゴシエーション、ファシリテーションの理解と実践
	22	ソーシャルワーク実践の展開⑥	高齢者虐待への支援（モニタリング～アフターケア）
	23	ソーシャルワーク実践の展開⑦	貧困家庭への支援（ケース発見～インテーク面接）
	24	ソーシャルワーク実践の展開⑧	貧困家庭への支援（アセスメント面接①）
	25	ソーシャルワーク実践の展開⑨	貧困家庭への支援（アセスメント面接②）
	26	ソーシャルワーク実践の展開⑩	貧困家庭への支援（プランニング～支援の実施）とプレゼンテーション、コーディネーションの理解と実践
	27	ソーシャルワーク実践の展開⑪	貧困家庭への支援（モニタリング～アフターケア）
	28	ソーシャルワーク実践の展開⑫	貧困家庭への支援とネットワーキング、ソーシャルアクションの理解と実践
	29	ソーシャルワーク実践の展開⑬	貧困家庭への支援（グループワーク実践の検討）
	30	事例検討のまとめ	様々なソーシャルワーク事例に共通する価値の理解

授業科目 （科目ID）		担当教員 （実務経験）	有 ☑ 無 ☐
対象年次・学期		担当教員 （実務経験）	有 ☑ 無 ☐
授業形態			
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	担当教員 （実務経験）	髙泉 一生 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として病院に勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	①ソーシャルワーク実習の意義、社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。 ②ソーシャルワークに係る知識と技術について、具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。				
到達目標	①ソーシャルワークの価値・倫理・知識・技術の概要、ソーシャルワーク実習の意義・目的を説明できる。 ②各実習機関の特性や支援対象者、社会福祉士・他職種の役割、根拠法、関連の制度・サービスについて概要を説明できる。 ③実習全体の流れ、事前学習・訪問、実習計画書、実習記録、事例研究、事後学習、総括レポート、実習報告会の目的・意義を説明できる。 ④実習記録様式・事例研究様式への適切な記載ができる。 ⑤ソーシャルワーク実習に臨む実習生としての姿勢、スーパービジョンを受ける姿勢とは如何なるものかを説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・社会福祉士養成講座8　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[社会専門]』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	40%	定期試験、提出物の提出状況や内容、教員の問いかけに対する応答、授業への参加態度（主体的に他者の発言を聴こう、理解しようとする姿勢、積極的に自分の思いや考えを言語化しようとする姿勢）を総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	30%	
	その他	30%	

履修上の留意事項	本科目は実習前の準備であり、授業での取り組みが実習に反映され、実習での学びの質や実習の評価に影響することを意識して参加すること。実習はクライエントや実習機関の協力のもと実現できる貴重な機会であり、周囲の方への感謝や敬意を忘れずに主体的・積極的に行動する必要がある。その具体的な行動として「自分が何をすべきか」を実習前に熟考し、見出すものが本科目である。心して全授業に参加すること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション、実習及び実習指導の意義と目的、実習生としての姿勢（髙泉・吉岡）	「暗黙知」と「形式知」、講義―演習―実習の循環、ソーシャルワーク・コンピテンシー、実習経験を通した新たな自己の発見、主体的な自己評価
	2	実習全体の流れと到達目標及び評価①（髙泉・吉岡）	実習前―実習中―実習後に及ぶ学習過程の理解、国通知及び道ブロックの実習評価表、実習評価ガイドライン①
	3	実習全体の流れと到達目標及び評価②（髙泉・吉岡）	国通知及び道ブロックの実習評価表、実習評価ガイドライン②
	4	ソーシャルワークの価値・倫理に関する理解（髙泉・吉岡）	社会福祉士の職業倫理、ソーシャルワークの原理、権利擁護、エンパワメント
	5	ソーシャルワークの知識・技術に関する理解（髙泉・吉岡）	アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション
	6	実習の三層構造と実習プログラムの理解（髙泉・吉岡）	「職場理解―職種理解―ソーシャルワーク理解」の流れ、実習先で準備する基本プログラムと個別プログラム
	7	実習先の提示と説明、実習先選定における留意点（髙泉・吉岡）	過去実習先一覧の公開、「ジェネリックな学び」の理解、現場体験学習、自己学習
	8	実習先で関わる他職種の専門性や業務、多職種連携に関する理解（髙泉・吉岡）	多様な職種の理解、連携の熟考
	9	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解（髙泉・吉岡）	養成校・実習機関・実習生による情報管理、それに関する倫理綱領の熟考
	10	実習中におけるリスクや悩み、ジレンマ（髙泉・吉岡）	リスクマネジメント、悩み、ジレンマの捉え方・構造・対処
	11	実習スーパービジョンと訪問・帰校指導、実習中間評価（髙泉・吉岡	スーパービジョンの意義・目的、機能、スーパーバイジーの権利、実習スーパービジョンの二重構造、実習計画書を用いた中間評価、巡回指導
	12	事後学習・総括レポート・実習報告会の意義、目的、方法（髙泉・吉岡）	事後学習の意義・目的、自己評価、他者評価・相互評価
	13	実習記録、事例研究の概要（髙泉・吉岡）	実習記録・事例研究の位置づけ、意義、目的、方法、様式、留意点
	14	各実習分野の対象者、施設・機関、地域社会の理解①（髙泉・吉岡）	高齢分野の対象者、施設・機関、地域社会の理解
	15	実習記録への取り組み①　事例研究への取り組み①（髙泉・吉岡）	実習記録様式への記入①　事例研究様式への記入①

	16	各実習分野の対象者、施設・機関、地域社会の理解②（高泉・吉岡）	児童分野の対象者、施設・機関、地域社会の理解
	17	実習記録への取り組み② 事例研究への取り組み②（高泉・吉岡）	実習記録様式への記入② 事例研究様式への記入②
	18	各実習分野の対象者、施設・機関、地域社会の理解③（高泉・吉岡）	医療分野の対象者、施設・機関、地域社会の理解
	19	実習記録への取り組み③ 事例研究への取り組み③（高泉・吉岡）	実習記録様式への記入③ 事例研究様式への記入③
	20	各実習分野の対象者、施設・機関、地域社会の理解④（高泉・吉岡）	障害分野の対象者、施設・機関、地域社会の理解
	21	実習記録への取り組み④ 事例研究への取り組み④（高泉・吉岡）	実習記録様式への記入④ 事例研究様式への記入④
	22	実習報告会の聴講（実習の具体的イメージの構築）（高泉・吉岡）	実習の実際と実習経験の意味の理解
	23	事前学習、事前訪問、実習計画書の概要（高泉・吉岡）	事前学習・事前訪問・実習計画書の位置づけ、意義、目的、方法、様式、留意点
	24	事前学習への取り組み①（高泉・吉岡）	事前学習課題の提示、事前学習様式への記入①
	25	各実習分野の対象者、施設・機関、地域社会の理解⑤（高泉・吉岡）	現場体験学習、見学実習①
	26	各実習分野の対象者、施設・機関、地域社会の理解⑥（高泉・吉岡）	現場体験学習、見学実習②
	27	実習記録への取り組み⑤ 事前学習への取り組み②（高泉・吉岡）	実習記録様式への記入⑤ 事前学習様式への記入②
	28	事前学習への取り組み③ 実習計画書への取り組み①（高泉・吉岡）	事前学習課題の提示、事前学習様式への記入③ 実習計画書様式への記入①
	29	事前学習への取り組み④ 実習計画書への取り組み②（高泉・吉岡	事前学習様式への記入④ 実習計画書様式への記入②
	30	年間のまとめ（高泉・吉岡）	年間の振り返り、次年度に向けて

授業科目 （科目ID）	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	担当教員	吉岡　秀典
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 社会福祉士として病院に勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員	
授業形態	講義	（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	社会福祉主事実習	担当教員 （実務経験）	高泉　一生 有 ☐✔ 無 ☐　社会福祉士として病院に勤務		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）	5回	時間数	30時間
授業目的	社会福祉行政に関する知識を習得し、社会福祉主事任用資格を取得する。				
到達目標	札幌市での行政実習（社会福祉主事実習）を通して、社会福祉行政や取り組み内容を理解する。				
テキスト・ 参考図書等	地域リハビリテーションハンドブック（編集・発行：札幌市地域リハビリテーション推進協議会）より適時資料配布				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	・提出物（社会福祉主事実習のまとめ）、小テスト、実習報告（発表）にて評価する
	レポート	%	
	小テスト	10%	
	提出物	80%	
	その他	10%	

履修上の 留意事項	札幌市での実習（3日間）は、1年に1回しかなく、日程が決まっており、補充することはできないため、遅刻、欠席、早退とならないように、あらかじめ体調を整えて臨んでください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション（高泉・吉岡）	本科目の位置づけと意義 実習時期と実習内容、留意点の理解
	2	実習に向けての準備①（高泉・吉岡）	福祉行政に関する基本的理解（行政機関の理解）
	3	実習に向けての準備②（高泉・吉岡）	福祉行政に関する基本的理解（関係法令の理解）
	4	社会福祉主事実習①（高泉・吉岡）	行政のしくみ 地域福祉について
	5	社会福祉主事実習②（高泉・吉岡）	生活保護について
	6	社会福祉主事実習③（高泉・吉岡）	高齢者福祉について
	7	社会福祉主事実習④（高泉・吉岡）	障がい者福祉について
	8	社会福祉主事実習⑤（高泉・吉岡）	精神保健福祉センターについて
	9	社会福祉主事実習⑥（高泉・吉岡）	身体障害者更生相談所・知的障害者更生相談所について 健康づくり事業について
	10	社会福祉主事実習⑦（高泉・吉岡）	児童福祉について（子育て支援、ひとり親支援、児童相談所等）
	11	社会福祉主事実習⑧（高泉・吉岡）	介護障がい担当課の業務内容について
	12	社会福祉主事実習⑨（高泉・吉岡）	家庭児童相談室について
	13	社会福祉主事実習⑩（高泉・吉岡）	生活保護の業務内容について
	14	社会福祉主事実習の振り返り①（高泉・吉岡）	実習内容に関するグループディスカッション
	15	社会福祉主事実習の振り返り②（高泉・吉岡）	実習報告

授業科目 （科目ID）	社会福祉主事実習	担当教員 （実務経験）	吉岡　秀典 有 ☑ 無 ☐ 社会福祉士として病院に勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
授業形態	実習		
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	 有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	精神医学と精神医療	担当教員 （実務経験）	百野　公平 有 ☑　無 ☐　精神科医として病院に勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	主な精神疾患の症状・経過・治療法と、精神保健福祉法などを理解し、精神保健福祉士として必要な知識を身につける。				
到達目標	福祉専門職および医療従事者として、将来精神医療・精神保健福祉の組織の一員として活躍できるための意欲・知識・コミュニケーション能力を身につける。				
テキスト・ 参考図書等	『最新　精神保健福祉士養成講座1 精神医学と精神医療』 一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70%	定期試験は年1回施行 原則毎回小テストなどを行い、採点および解説を行う 授業への取り組みを通して、コミュニケーション能力・社会性なども評価対象とする
	レポート	%	
	小テスト	20%	
	提出物	%	
	その他	10%	

履修上の留意事項	丸暗記でなく、疾患を理解することができれば、国家試験は容易に80%以上の正答が得られますので、集中して授業に参加してください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	精神医学の歴史と将来の目標	精神医療の歴史・将来の目標・（当院のPSWの業務）
	2	生物学的基礎	脳の機能・中枢神経・末梢神経・自律神経
	3	精神障害の概念	精神疾患と精神症状
	4	診断と検査	診断のための問診と検査・（当院のPSWの受診相談）
	5	代表的な疾患	認知症
	6		せん妄・てんかん
	7		依存症
	8		統合失調症（1）
	9		統合失調症（2）
	10		気分障害（1）
	11		気分障害（2）
	12		薬物療法
	13		不安障害・強迫性障害
	14		ストレス関連障害
	15		摂食障害・発達障害

	16		パーソナリティ障害
	17	精神疾患の治療	薬物療法・電気けいれん療法
	18		精神療法・リハビリテーション
	19	精神科医療機関における治療の実際	外来治療・デイケア・訪問看護
	20		入院治療の歴史・精神保健福祉法における入院形態・精神保健指定医
	21		医療保護入院における退院促進・行動制限
	22		医療観察法における入院・通院治療
	23		役割と協働する職種
	24	精神科医療機関における精神保健福祉士の役割	役割と協働する職種
	25	精神医療と保健、福祉の連携	早期介入・精神保健センターや産業医の役割
	26		精神科救急医療システム・認知症初期集中支援チーム
	27		地域包括ケアシステム
	28		高齢者の施設について
	29	精神医療の動向	精神科医療機関の実態とPSWの業務
	30	まとめ	テスト対策・まとめ等

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	キャリアデザインⅡ	担当教員 （実務経験）	吉岡　秀典 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として病院に勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	8回	時間数	15時間
授業目的	本科目は、各人が自分自身の『こうありたい』という自己イメージを明確にし、その実現のためにどうすれば良いかを考えるとともに、4年間を見据えた各学年における方向性を構想・実践することを目的としている。				
到達目標	①介護実習からソーシャルワーク実習への円滑な移行を図るため、介護実習での課題や成果を共有し、次の実習に向けても対策をたてることができる。 ②学年末に行われる介護福祉士及び社会福祉士学内模擬試験において受講終了科目が合格点に到達することができる。				
テキスト・ 参考図書等					

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	40%	他者との対話、交流、ディスカッションに取組む姿勢（主体的参加、共感的理解、無条件の肯定的関心、受動的・積極的姿勢など）、教員の問いかけに対する応答等授業への参加態度、学年末の介護福祉士・社会福祉士学内模擬試験結果と提出物（提出状況や内容）にて総合的に評価する
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	40%	
	その他	20%	

履修上の留意事項	各人が自分自身というものを客観視でき、自分自身の将来についての方向性を持ち、その実現のための手掛かりを得ること、また有意義な学生生活を送ることができることを期待します。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	目標設定	個人目標とクラス目標の検討
	2	自己覚知とストレスマネジメント	自己覚知とストレス・マネジメントについて学習し、今後に活かす
	3	介護福祉実習Ⅱの振り返り	介護福祉実習Ⅱで課題だったこと
	4	ソーシャルワーク実習に向けて①	介護福祉実習を踏まえたソーシャルワーク実習に向けての心構え
	5	ソーシャルワーク実習に向けて②	介護福祉実習を踏まえたソーシャルワーク実習に向けての心構え
	6	ソーシャルワーク実習に向けて③	介護福祉実習を踏まえたソーシャルワーク実習に向けての心構え
	7	資格取得に向けて	介護福祉士・社会福祉士国家試験に関する取り組み
	8	1年間の振り返りと自己評価	1年を振り返り、今後の課題を明確化する（クラス目標含む）
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		